

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会 平成29年11月20日発行

No.124



(大妻籠 撮影者:松下達也)

10月初めには稲刈りも終わり、すっきりとした姿になります。
昔は5月の節句に田の神様の祭りを畦で行なったそうですが、
収穫祭も行なわれていたのでしょうか。
伝えておきたい文化のひとつです。

小笠原 美雪

文化文政風俗絵巻之行列始めの頃

理事長 小林 俊彦

50年も経てば細かいことは大部分忘れてしまった。でも肝腎要の妻籠宿保存事業の推進に係る事柄（信念）に関しては、心の深底にこびりついていて、時々その時の情景が心眼に顕れてくる。長野県知事西沢権一郎氏が11月23日に予定されていた起工式に来宿することになった。県知事が町や村の小さな工事の起工式に出席するということは、県内でも前例がないとして県庁内でも種々議論があったので、私の耳にも入り、事の重大さを悟っていた。11月23日に公式な起工式を行なうということは、長野県明治百年事業妻籠宿保存工事が巨額な県費補助を得て、日本の国で初めて行なわれる集落保存工事であるだけに、町として、工事施工体制・段取りに11月末頃まで掛るとしていた。23日は和智野神社の例祭の日であるので妻籠宿の当時の指導層も同意した。

さて、日は決まったが県知事が来宿するとなると、前代未聞、簡単に事を進める訳にはいかない。町長片山亮喜から歓迎のイベントについて相談があった。過疎と限界集落におびやかされていた妻籠宿の起死回生の大事業の起工式である。どのように行なうか満身の知恵を絞らなければならない。あれこれ宿内の有志の胸を叩いてみた。判ったことは、この大事業の真意を宿場の住民がよく理解していないことであった。どのようにして判っていただくか。

9月に発足したばかりの住民組織「妻籠を愛する会」の拡大役員会を招集した。その席でイベントについて相談。ところがいきなり提案されたので喧々諤々百論百出、まとまらない。そこで私案として、「昔の仕度で馬籠峠から宿場まで歩けば、この事業の持つ意味が皆さんに判るし、イベントに金もあまりかからないし、大勢参加できる」を提案した。賛否両論があったが、他に名案がないので実行することになった。イベント名は「文化文政風俗絵巻之行列」とした。昔、文化文政頃（1804～1829）の宿場繁昌を期待して命名した。



〈第45回文化文政風俗絵巻之行列〉



左記は第15回の瓦版です。

第1回発行から携わってこられた藤原宗三氏発行の「40回記念瓦版集」より、作者のコメントを抜書きします。

「風俗絵巻之行列を始め、15年になるがここまで来るのに試行錯誤で大変苦労した。…さて、妻籠宿は百年の大計に立ち妻籠宿保存財団を立ち上げた。どうか志のある人たちや一般の人たちからも目標額の基金が集まるよう寄附してほしい。妻籠宿が生き残って行くのもこの財団法人に掛かっているが我々住民の心掛け次第だ。」

脇本陣奥谷開館50周年を記念して

顧問 林 文 二

過日9月9日、博物館主催で「脇本陣奥谷開館50周年記念式典」が行なわれました。町の歴代関係者等多数出席、半世紀50年の歴史は語り尽くせるものではありませんが、思い出話に花が咲きました。当館は、幸いにも大きな事故、災害も無く、今日に至りましたのは、各方面でのご支援、ご愛顧の賜と厚く御礼申し上げます。

当時は全く先例の無い、雲を掴むような事業でしたが、開館式では幸いご来賓の皆様も多数参列していただきました。その中で、先年より当家とご縁があった、万葉集研究の第一人者、大阪大学の犬養孝先生より、祝宴スピーチの中で「初恋を思うべし」の一句がありました。初心を忘れず、いつまでも初々しい感覚でこの郷土館を運営していつてほしいとのお言葉であったと、記憶しています。

近年、各方面で、博物館の設立も多く見受けられますが、その運営は厳しいものがある様です。当館も開館半世紀を迎え、次の一世紀に向けて、周知を集め、ご尽力して頂くことを願ってやみません。

昨年9月9日、信毎系の「タウン情報」の取材を受け驚きましたが、きょうは開館記念日と思い、これも何かの縁と一時間余り語りました。以下、その記事を転載させていただきます。

〈2016年9月22日タウン情報より〉

『町並み保存で集落再生へ』

日本初の町並み保存を試み、現在は年間45万人以上の観光客が訪れる妻籠宿(南木曾町)は50年前、住民の高齢化と過疎化で限界集落になりつつあった。再生への道のりは、脇本陣だった林家住宅を「奥谷(おくや)郷土館」として1967(昭和42)年に公開、文化財保存のシンボルにしたことに始まる。

「奥谷」は屋号。島崎藤村の初恋の人「ゆふ」の嫁ぎ先で、当時の当主は小説「夜明け前」にも登場する。藤村文学の資料が多いことから文人らが訪れ、戦時中は東京の文化人が疎開した。

現当主は25代目の林文二さん(87)。5人きょうだいの末っ子で、50年前は上松町で薬剤師をしていた。観光開発は古い物を壊し、新しい物を造る風潮だったが、妻籠では当時町職員で現在は理事長の小林俊彦さんらが住民組織「妻籠を愛する会」を結成。林さんも加わり、郷土館開館を手始めに宿場町の保存活動に取り組んだ。

同じころ、県の明治百年記念事業の一つに妻籠宿再生が組み込まれ、76(昭和51)年に重要伝統的建造物群保存地区の指定第1号の一つに。旧国鉄が70

年代に始めた観光キャンペーン「ディスカバー・ジャパン」の波にも乗り、江戸時代の面影を残した山あいの町並みに人が押し寄せた。

取材に訪れた9日は偶然、「奥谷郷土館」の開館記念日だった。林さんは「うちも栄枯盛衰があったが、本宅を残せて良かった」。来年で開館から半世紀。「特別でなく、静かに迎えられたらいい」と、庭に目をやった。

【林家住宅】 林家は元は木曾氏の家臣で、江戸期は代々、妻籠宿の脇本陣問屋を務めた。現在残る住宅は1877年、総ヒノキ材で建てられ、明治以降の建築では県内初の国重要文化財。「脇本陣奥谷(林家)」と敷地内の「歴史資料館」、95年に復元された「妻籠宿本陣」の3館で南木曾町博物館を構成する。



〈脇本陣奥谷開館50周年記念行事〉

妻籠地区大運動会 2年ぶりの屋外開催！2017年10月8日(日)

一区（渡島） 佐藤 洋平

爽やかな秋晴れの下で、二年ぶりに屋外開催された「妻籠地区大運動会」に今年も家族5人で参加させていただきました。

我が家は、長男6才、次男3才、長女1才の3兄妹です。子どもたちは、前日から「今年もお菓子もらえるかな?」と、わくわく、そわそわ。それに対して大人は「動けるかな?走れるかな?何の種目に出されるかな?」と、ドキドキ、そわそわ。お弁当担当は、前日からの仕込みに、早朝準備で頭がいっぱい。それぞれに運動会に対しての想いがありました。

本番当日は、気持ちの良い青空で、年に一度の重箱を持って、ジャージに袖を通し、張り切って向かいました。

今年の渡島地区は、子どもの数も増え、賑やかなチームになりました。子どもたちも「僕たちどれなら出られるー?」と、とても積極的でした。大人たちは綱引きに燃え、みごと優勝することができました。いつもは、それぞれに仕事や家事育児にと忙しい大人たちも、この日は一致団結し、一区一丸となって取り組む姿がありました。

大きな声で応援したり、一緒になって喜んだり、とても楽しい一日でした。

また、ここ数年は外国の観光客も多く、運動会の賑やかな声に誘われ、観戦したり写真を撮る姿も見受けられました。

このような、賑やかで楽しい大運動会が未来の子どもたちへ引き継いでいけるよう、私たちの世代が盛り上げていきたいと思う一日となりました。

三区（尾又） 藤原 鈴子

今年は運動会の前日まで雨が降っていましたが、当日は雨も上がり、二年ぶりに校庭で行うことができました。体育館で行うより気分も晴れやかで、思い切り体を動かすことができましたと思います。とは言うものの、年々運動不足や体力低下もあり、怪我だけはないようにと、ストレッチの段階から頑張り、ある意味自分の体との戦いでもありました。

今年の三区は、四連覇目指して気合充分でしたが、最初の種目から思うような結果が出せず、なんと最下位になってしまいました。慰労会では、来年に向けての対策として、お寺の階段はウサギ跳び!寺下を歩くときは、行きは樽ころがし、帰りはお玉にピンポン玉を乗せて歩く!などと、リベンジ優勝を夢見て盛り上がりました。

残念な結果になってしまいましたが、日々子育てや仕事に追われている私たちが、地区の方々と一致団結して頑張れることは、素晴らしいことだと改めて感じることができました。皆で汗を流して、たくさん笑って、悔しがったり喜んだり…共感し合えることは幸せなことです。そして、子どもたちもそれを感じ取ってくれているはず。子どもたちが大人になっても、妻籠の運動会って楽しいよね!と、きっと引き継いで行ってくれるんだと思います。運動会終了後は、筋肉痛との戦いでしたが、いい思い出がまた一つ増えたと嬉しい気持ちでいっぱいでした。

準備をくださった役員の皆様、本当にありがとうございました。そして、来年もよろしくお願いします。





妻籠分館育成部『納涼祭』

広報部 松下 達也

妻籠分館育成部主催の恒例の納涼祭が8月6日、妻籠分館前庭で開催されました。

夕方からの祭りに備えて、役員が総出で午後から準備に取りかかりましたが、いつもながらの夕立が来そうな空模様に気をもみながらも、大勢の人たちの来場を期待して、会場づくりに精を出していました。

夕暮れが迫るころ、親子連れを中心に人が集まり始め、飲み物や焼きそばなどの食べ物を手に手に持って、賑やかで楽しい夏の行事が始まりました。

一段盛り上がったところで、お待ちかねの流しそうめん。小さな子どもたちが我先に上流を確保し、美味しそうにそうめんをすすり食べていました。友だちとワイワイ遊ぶ子どもたちがいたり、新調されたテント内の客席では地域の若者、ご年配の方々が入り混じって話しに花を咲かせ、中には地域の人々との交流を楽しんでいる外国から来た観光客の姿も見受けられました。

食べ物、飲み物も盛りだくさんに用意され、閉会を迎えるまで、参加された方々は楽しいひとときを満喫できたと思います。



〈納涼祭が始まる前に御神輿が修理にだされました〉

妻籠地区敬老会 2017.9.10

恋野区 石垣よしゑ

9月10日の晴天に恵まれた日、南木曽会館に52名の招待者をお迎えして、54名のスタッフとともに、敬老会が行なわれました。

私は、きのこ汁作りの責任者として参加しました。お年寄りに配慮して、きのこを小さく切ったりし、約100名分のきのこ汁を作りました。8名のスタッフは手馴れた人ばかりで、思ったより早く、おいしくできました。

その後は、敬老会に参加させていただき、カラオケや子どもたちのダンスを見て、楽しい一時を過ごさせていただきました。

招待者の方々も、楽しそうに帰っていかれて、良かったと思いました。



田立花馬祭り 300年記念祭！

享保二年（1717）に始まったとされる田立の花馬祭りの300年記念祭祝賀式典が、9月30日、恒例の花馬行列が10月1日に開催されました。



宿 場 暦

- 8月 1日：妻籠宿案内人の会世話人会・学習会
 4日：オオハンゴンソウ駆除作業
 (環境保全委員会・11名参加)
 6日：平成29年度第2回観光地点パラメータ調査
 14日：観協役員会
 19日：一石栃オオハンゴンソウ除去作業
 20日：広報123号発行、テレビ山梨撮影
 21日：統制委員会
 23日：アレチウリ駆除作業(3名)
 24日：愛宕山火まつり
 26日：妻籠宿火まつり
 28日：アレチウリ駆除作業(3名)
- 9月 4日：スカパー撮影
 5日：広域季刊誌プロジェクト会議(常務)
 9日：脇本陣奥谷開館50周年記念行事
 (理事長・常務)
 12日：マラソン実行委員会
 14日：木曽観光地域づくり戦略プロジェクト会議
 19日：南木曽町リニア中央新幹線対策協議会
 (理事長・常務)、るるぶ撮影
 20日：統制委員会、ナショナルトラスト常任理事
 会(東京・常務)
 21日：木曽風景街道推進協議会役員会(常務)、
 記念誌委員会
 25日：妻籠地域振興協議会(理事長)
 24日：大井水清掃作業
 26日：広報部会、(株)トリプル撮影
 30日：田立花馬祭り300年記念祝賀式典
 (理事長)、衣装部会
- 10月3日：観協役員会
 4日：南木曽町植樹祭(北蘭国有林・常務)、
 与川観月会(常務)
 11日：風俗絵巻之行列第1回実行委員会
 12日：『PAPERSKY』撮影
 13日：広域観光振興PJ会議(合庁・常務)
 18日：一石栃環境整備作業
 19日：木曽観光地づくり戦略PJ会議
 (王滝村・常務)
 20日：統制委員会、景観整備推進シンポジウム
 24日：妻籠宿案内人の会視察研修会(彦根市)、
 広域撮影
 30日：中京テレビ撮影
 31日：広報部会、着付練習

統制委員会審議事項

- 8月21日
 ・配電線の経路変更(中電:中町～下町) 1件
 ・低圧引込線新設・撤去(中電:馬籠峠) 1件(保留)
 ・鉄塔基礎上部コンクリート劣化補修(関電) 1件
 ・階段・木橋補修(町:馬籠峠男滝付近) 1件
 ・青笹町有林支障木伐採(町:細野山) 1件
 ・道路交通安全対策工事(県:256号線上在郷) 1件
 ・弘法堂修繕(恋野区) 1件
 ・住宅の新築(恋野) 1件(保留)
- 9月20日
 ・雨水排水改修工事(上町) 1件
 ・土地の形質変更(駐車場・螢の繁殖地:恋野) 1件
 ・群状択伐(関電:渡島～下り谷) 17件
 ・堰板・破風板・樋修繕(寺下) 1件
 その他:前回保留分(図面変更) 1件
- 10月20日
 ・土蔵修繕(寺下) 1件
 ・群状択伐(関電:下り谷～吾妻橋) 8件
 ・樹木伐採(上町:光徳禅寺) 1件
 ・鯉ヶ岩水路改良工事(町:恋野) 1件
 ・尾又農地復旧工事(町:尾又) 1件
 ・水路復旧工事(町:下り谷・橋場) 2件
 ・転落防止策施工(町:上町) 1件
 ・案内看板補修事業(町:枅形上) 1件



〈9/24 大井水清掃作業〉



発行:公益財団法人妻籠を愛する会
 〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2
 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

愛宕山火まつり 2017.8.24

恋野区 横山 奏・葵

い	た	火	た	で	た	に	に	火	て	に	上	あ	今
で	が	が	ご	お	火	を	じ	と	で	た	年		
す	ま	光	あ	ち	下	か	が	点	う	木	ご	も	
た	た	そ	に	っ	つ	け	ん	油	を	山	お		
来	て	ご	う	お	て	い	て	び	を	切	に	父	
年	き	山	を	り	さ	た	っ	を	入	登	さ		
も	れ	を	食	て	け	ぞ	あ	し	れ	た	り	人	
登	い	見	べ	み	び	と	た	ま	た	り	ま	と	
り	で	た	ま	ん	ま	と	ご	し	り	か	し	君	
た	し	ら	し	な	し	下	山	た	し	人	た	と	

